

日本科学者会議 福井支部 ニュース

第2号 2001年8月6日発行

** 日本科学者会議福井支部

** 〒910-8507 福井市文京3-9-1

** 福井大学工学部 小倉久和研究室 気付 TEL 0776-27-

8582

** ogura@nqueen.fuis.fukui-u.ac.jp

** 口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

** ホームページ <http://jsp.gr.jp/fukui/>

第31期支部ニュース No.2をお届けします。できるだけ多数発行します。今回は議事要録が中心ですが、多様な投稿記事、意見などを事務局まで電子メールでお寄せ下さい。歓迎します。

今号の内容

◎「遠山プラン」に対する見解 (2001.7.30付 日本科学者会議の見解)

◎福井支部の活動 (幹事会, 常任幹事会の議事要約)

6/5 第1回幹事会, 7/3 第1回常任幹事会

7/9 臨時常任幹事会, 7/17臨時拡大常任幹事会

◎8/3 北陸地区会議 議事要約

9月例会のお知らせ

「食とくらしを守る－畜産の研究事例から考察する－」
報告：加藤武市氏

一地方の研究機関が行ってきた顕微受精、クローン牛誕生、雌雄産み分け、超音波装置を用いた和牛肉のさし(脂肪交雑)の推定等等、バイオテク、ハイテクを駆使した畜産の研究は、この20年間、著しく飛躍した。これらの成果は、畜産界のみならず、人間の繁殖分野にも貢献している。

しかしながら、研究指針は、国(米国とEU)により若干異なること

に気づいた。例えば、畜産物の安全性、動物の福祉、環境保全、自然循環型農業、食料の自給率など、研究を振り返り考察する。

日時 2001年9月11日(火) 18:30~20:00

場所 福井大学教育地域科学部1号館5階・51演習室
ご関心のある方はどなたでも、会員・非会員を問わず、ご参加下さい。

お願い 2001年度後期会費未納の会員は至急納入下さい(現在、約1/4の会員からのみ納入)

過去の会費が未納の会員は、分納でも結構ですので、滞納一掃にご協力下さい。

福井支部のホームページが、本部のページからリンクされました

<http://www.jsa.gr.jp/> からたどれます。

支部のホームページには、「福井の科学者」の創刊号からの目次をすべて掲載しています。

会議の記録 第1回幹事会

2001.6.5(火) 18:00~20:00, 福井大学教育地域科学部1号館5階 52演習室

*小幡谷・*小倉・*小寺・*森・*高木

1. 福井支部第30回定期大会(総会)について
2. JSA第34回定期大会参加報告(報告は、支部ニュース No.1に掲載)
3. 支部組織の確認: 幹事, 常任幹事について一部未定
4. 第31期福井支部の活動について
 - (1) 月例会の計画 9月ころに例会開催, テーマ案を検討
 - (2) 30周年記念行事について: 少し長期的に検討する。講演会、出版などが提案された。
 - (3) 『福井の科学者』編集方針・発行方針: #85は近々出版。#86,#87の企画案を急ぐ。
 - (4) 支部の各組織の活動: 中池見プロジェクトチーム(6/10 フィールド学習会), その他
 - (5) 他団体との協力

ゆきのした：創刊50周年、ゆきのした平和文化資料館を丸岡に開設準備中、夏～秋に記念行事を日中有効協会と共同で開催予定。

原発問題住民運動福井県連絡会：総会の案内 6/17 1:30～16:00 県民会館205号室

(6) 全国規模・国際規模での活動

日本海シンポ：島根，14総学：北海道，その他

(7) 会員拡大

(8) 財政 今期の会費請求書は作成済み、近々発送する。

引き続き滞納の一掃計画：引継ぎは約45万円、今期の達成目標は20万円台。

前納計画・早期集金体制の確立

第1回常任幹事会

2001.7.3(火) 19:00～20:00 福井大学教育地域科学部1号館5階 5
2 演習室

*小幡谷・*小倉・*森・*高山・*加藤・*高木

1. 全国常任幹事会 6/30-7/1 報告 (高木)

(1) 科学者集会 at 岐阜 へ支部の参加を

(2) 「日本の科学者」の自費出版化に伴い、ページ制限の緩和、広告ページの廃止、会員の声欄の設置、名簿の充実、など。支部還元を2%から3%へ拡充。

(3) 基金について：利息が10万円/年ほどしかない。5万円/件×2件/年の助成しかできない。

基金を取り崩したらどうか、という意見もあるが、当面はこのままで行う。

(4) 従来の「地方区」の呼称を「地区」と変更。また、担当幹事を正・副の2名とする。

(5) その他 全国事務局長会議 西日本：9/29-30 at 大阪

若手シンポ at 奈良 へ支部からの参加を

2. 支部の組織について：未定の幹事，常任幹事について決定した。

3. 第31期福井支部の活動について

(1) 月例会の計画 9月頃に，加藤氏（常任幹事）の報告で例会開催計画

(2) 30周年記念行事企画について

(3) 『福井の科学者』編集方針・発行方針：次回，#86について編集委員長から提案。

(7) 会員拡大：入会案内の配付，HPの紹介，院生会員の拡大について

(4)～(6)，(8)は省略

4. その他：北陸地区会議8/3。権利白書(2500円)の普及活動。支部HPを

本部へ登録。

臨時常任幹事会 2001.7.9(月) 12:20-12:50 福大教育伊藤研究室 (小幡谷, 小倉, 森, 伊藤)

臨時拡大幹事会 2001.7.17(火)19:30-20:10 福大教育1号館52演習室 (川 + 小川, 小寺, 高木)

森次長 (情宣担当) と伊藤編集長が, 福井大学教職員組合の次期3役候補に出ることになったことをうけ, 支部組織について当面の方針を検討した。

1. 支部幹事補強について

福井大学教育地域科学部の幹事・常任幹事の体制が弱くなるので, 補強する。

幹事の追加提案: 隼田, 松浦 常任幹事の追加提案: 横山 (現幹事), 隼田, 松浦

次回幹事会へ提案する。教育地域科学部からの幹事は現幹事の塚田氏と併せて4氏となる。

2. 編集委員長について

山川常任幹事が, 今年度だけ引き受ける。当面, 次のような方針とする。

(1) 当面, 前編集長の高木氏の協力を得て, 「福井の科学者」の発行を続ける。

(2) 86号の企画・原稿依頼等については, 高木氏が主に担当し, 山川氏に引き継ぐ。

10月発行予定: 加藤氏, 山岸氏, 高山氏, 竹内氏等に依頼予定

(3) 87号の企画, その他の全体の方針については, 山川氏が担当する。

3. 機関誌・情宣等について: 現事務局で分担して担当する。

今後の方針について検討した結果, 当面, 次のような方針とした。

(1) 機関誌等の配付: 小寺氏の協力を得て, 小川氏が担当。

(2) 支部ニュース発行, 例会案内などは, 小倉が担当。

(3) 来年の支部総会開催が重荷にならないよう, 総会議案書などを早期に完成させる。

北陸地区会議

2001.8.3(金) 10:50~12:40 金沢全日空ホテルロビー喫茶

高木(担当幹事), 横畑(富山), 飯田(石川), 小倉(福井)

1. 全国常任幹事会報告 (高木) : 第1回常任幹事会の高木報告と重複。

2. 地区担当幹事, 副担当も置く: 次期常任幹事支部の石川から選出

3. 日本海シンポ担当の島根支部の状況, 権利白書の販売促進, などについて意見交換

4. 北陸地区活動について

今期の北陸合同研究集会は富山担当。2002年3月～5月に実施予定。テーマは、海を含めた広い範囲で、環境保全に関する問題などを検討中。

5. 支部報告

富山：事務局長と財政担当の2人とも、大学の教職員組合の役員を兼務している。

- ・第25回立山の花めぐり 8/3～8/5
- ・黒部川ダム問題（排砂、へどろ排出、など、山と川と海に関係した環境問題）
- ・支部通信は、毎月出している。会員の自己紹介を、毎月2人ずつくらい載せる計画。

石川：月例会「教科書問題を考える」6/27

- ・ビアパーティ実施：人ゲノムについての報告と討論、ビアパーティ

福井：機関誌「福井の科学者」85号発行

- ・例会予定（9/4 食とくらしを守る）
- ・ニュースは大会後1回出した。
- ・ホームページを更新：「福井の科学者」の創刊号からの全目次を掲載。

6. その他の意見交換

・HPは、石川支部は開設しているが、本部からはリンクしていない。富山は未開設。

- ・北陸各支部で、相互にリンクを張ったらどうか。

独り言のコラム 新しくて古い歴史教科書

再び8/15が巡って来る。少し陰りがでてきたとは言え異常に人気の高い小泉首相は、靖国神社参拝を強行する意志を示している。死ねばみな仏、死んでまで差別しないといけないのか、などという一般受けのすることばで主張している。しかし、実は死んでまで差別しているのは、「国賊」西郷隆盛を排除している靖国神社の側であり、回天に押し込められて死んで行った兵士の立派さを説くことで、押し込めた側を免罪する思想である。（OG）

- ・富山担当の合同研究集会について意見交換。

事務局から：ニュース記事，自己紹介記事，コラム，意見などお寄せ下さい。

日本科学者会議は、7/30付けで、遠山文部科学相の発言（「遠山プラン」）に対する見解を発表しました。支部事務局に送られて来ましたので、転載します。

「遠山プラン」に対する見

去る6月11日、経済財政諮問会議において遠山文部科学相は、「大学（国立大学）の構造改革の方針—活力に富み国際競争力のある国公立大学づくりの一環として—」および「大学を起点とする日本経済活性化のための構造改革プラン—大学が変わる、日本を変える—」（いわゆる「遠山プラン」）を提出した。内容は短いものであるが、今後の大学の在り方について言及したものとして極めて重大な内容を含んでおり、看過することはできない。

問題点の一つは、行政改革の真のねらいである強力な中央集権化による強大な国家づくりの中心的な役割を果たす内閣府につくられた経済財政諮問会議において、これまでの文部科学省の議論の枠を超えたわが国の国・公・私立を含む全大学の在りようが、大学改革の基本方針として出されていることである。

二つは、今世紀最初の国政選挙である参議院選挙を前にして、小泉政権の異常人気を背景に、短期的な視野で考えられているにすぎない経済活性化策に直接役に立つことを大学に要求し、大学が本来持っている経済や産業の活性化に果たしうる真の可能性を奪い去る再編計画を強引に押し進めようとしていることである。これはわが国の教育・学術・文化、産業・経済、医療・福祉等を支えてきた国民的財産である大学に対して、経済が困難な状況の中で国民がもつ期待にまったく逆行するものである。

その三つは、格差・選別によってまともな教育もできない貧困な環境を多くの大学に押し付け、先進資本主義諸国ではまれにみる高学費を学生に課してきた責任には全く触れないだけでなく、わが国の大学の拡充発展を願う真摯な大学人による改革論議を無視し、経営的発想によるスクラップ・アンド・ビルトにもとづく大学の統廃合、独立採算性を前提にした法人化に加えて、第三者機関による評価や財政誘導による競争によって、国公立上位30大学（5%）のみを重点化し、残りの95パーセントの圧倒的多数の大学を淘汰するという計画を具体的に示したことである。

ここには、憲法が保障する学問の自由、教育基本法が示す教育の目的を実現するために大学が高等教育機関として果たしてきた役割、世界の平和と人類の福祉のための貢献を前進させるという姿勢が全く欠如している。単なる目先の国策遂行のための新産業創出および人材育成機関としてしか大学を位置付けていない。「大学が変わる、日本を変える」と言うが、真意は「大学を変えて、日本を変える」ことにあるのであろう。まさに、「遠山プラン」は「改革」の名のもとに国民に「痛み」を強いる政策と軌を一にしたものである。

国立大学の独立行政法人化の問題が「行政改革」による公務員削減の数合

わせとして出され、それが大学人による真摯な大学改革の願いとも、国民の大学に対する期待とも無縁であったように、この「遠山プラン」も国民の求める高等教育への要求とは逆行しており、その行き先は「大学の破壊」につながり、国民の高等教育を受ける権利と機会を奪いかねないものである。この意味では、「遠山プラン」は大学のみではなく国民全体にかけられた攻撃でもある。

1998年のユネスコ「高等教育世界宣言」などに見られるように、世界的に見ても高等教育の重要性が改めて問われ、その充実が求められている。わが国で今必要なことは、政府の示している、いわゆる「骨太」な構造改革の方向ではなく、管理統制、格差分断、貧困放置の教育行政を改め、教育・研究環境を飛躍的に整備拡充することが可能な大学財政を保障することである。特に高等教育においては、文化の拠点として、将来の発展を展望し、大学の全ての面にわたっての拡充を図ることである。いまこそ、例の「百俵の米」が教育に対して投じられたものであったことを思い起こすべきであろう。